

腸管出血性大腸菌O157による 死者の発生について

平成24年（2012年）8月11日（土）

照会先：札幌市保健所

食の安全推進課

担当：山口、宮原

電話 622-5174

感染症総合対策課

担当：館、田森

- 1 本日、札幌市保健所に「下痢、血便、発熱などの症状を呈して平成24年8月8日（水）から札幌市内の医療機関に入院していた患者が、本日午前10時20分頃、腸管出血性大腸菌感染症により亡くなった。」との連絡があった。
- 2 亡くなつた方は、市内の高齢者関連施設に入所していた100歳代の女性で、医療機関が実施した検便検査の結果、腸管出血性大腸菌O157が検出されたことが判明している。
- 3 また、亡くなつた方の入所していた施設を含め市内5箇所の高齢者関連施設において、同様の症状を呈した有症者が発生しており、有症者の一部では、医療機関による検便検査により、腸管出血性大腸菌O157が検出されている。

【現在の状況】

施設数	有症者数	入院者数
5	49名	36名

※有症者数、入院者数は8月11日（土）午後5時現在

- 4 現在、札幌市保健所では、原因究明のため食中毒と感染症の両面から調査を進めている。
- 5 例年、夏期は腸管出血性大腸菌による食中毒や感染症等の発生が多い傾向があり、特に、小児、高齢者、抵抗力の弱い方は重症化する危険性があります。報道機関の皆さんにおかれましては、下痢、血便などの症状が出た場合には速やかに医療機関を受診するよう、市民への周知にご協力をお願いいたします。

患者、医療機関、高齢者関連施設等の特定に係る情報の収集等につきましては、プライバシーの保護及び医療機関等の運営に支障をきたすため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。

なお、本件について、原因が判明した場合には、あらためて詳細をお知らせいたします。